

やまきた

議会だより

第188号

平成29年2月1日

第4回定例会

認定こども園条例可決

一般質問

ズバッと問う！

生きいきひろば

世附の百万遍念仏

ダム建設により幽境の地三保世附地区から、現在の向原能安寺に場所を移し守られてきた、県指定無形民俗文化財「世附の百万遍念仏」

第4回定例会 認定こども園条例 など17議案可決 (12月5日～8日)

平成28年第4回定例会を12月5日から8日まで開催した。
主な議題は条例制定、補正予算など17件を審議した。
一般質問に立った議員は8人で、12項目の質問があった。
(一般質問は7ページから15ページに掲載)



一人で食べられるよ

条例制定

《認定こども園条例》

平成29年4月からスタートする幼保連携型の「認定こども園」開設に伴う新規条例の制定。
本会議で質疑終了後、福祉教育常任委員会へ付託し審査した。(審査報告は5ページに掲載)

条例改正

《税条例》

地方税法の改正により、税条例の一部改正をおこなうもの。

特例措置の対象は

渡辺議員 (※) わがまち特例によって、町が定めた特例措置の内容に該当する企業はあるか。

町民税務課長 平成29年1月の償却資産申告が終わらないと、該当物件は確定しない。

近隣の改正状況は

県の条例改正に伴う改正。

渡辺議員 条例改正は、県下の市町村そろって提案しているのか。

都市整備課長 上郡では、山北町が先行して県条例にあわせた改正を行っている。

《職員の給与に関する条例》

認定こども園開設に伴う職務の分類基準を改正。

職務表記を明確に

川村議員 こども園に関する職務を、高度の知識経験を有する副園長から、こども園の副園長と明確に記載することはできないか。

総務防災課長 新たに5級

税収の見通しは

渡辺議員 29年度からの5年間、どの程度の税収を見



人気のユーシン渓谷

に副園長の職務を置き、その後、副園長として経験を積まれた中で6級へ昇格という形を考えてこのような記載とした。

補正予算

わかば保育園の認定こども園への移行および清水保育園の廃園に伴う改正。

《一般会計》

保育園の遊具は
歳入・歳出それぞれ1億8635万円を増額

石田議員 清水保育園の廃園について、地元の反応はまた、廃園に伴い今まであった使用可能な遊具を、有効活用する考えは。

副町長 地元の連合自治会、地区振興協議会等を通じて

個人町民税の減収要因は

川村議員 納税者は何人ぐらい減っているのか。

町民税務課長 納税義務者は38人減っており、町民全体の総所得は前年と比較して約3億円減っている。

また、15歳から65歳未満までの生産年齢人口が、昨年よりも279人減っている状況である。

鳥獣害対策に 国の交付金活用を

井上議員 鳥獣被害の捕獲助成金に、国の交付金を活用しないのか。

増えた観光客に 駐車料金の負担を

藤原議員 ユーシン渓谷への観光客増により、玄倉スポーツ広場整備工事を行うとあるが、駐車料金の徴収を考えているか。

副町長 県からゲートボール場として借りている土地のため、料金を徴収することとはできない。今後、駐車場として借りられるかどうか、県と協議していきたい。

選挙

**南足柄市外五ヶ市町
組合議会議員**

平成29年2月19日任期満了に伴い、指名推選で相原道博氏(岸)が当選されま

福祉教育常任委員会審査報告

平成29年4月認定こども園へ

「町立認定こども園条例の制定」

福祉教育常任委員会では、町立認定こども園条例について審査し、全員賛成で原案どおり了承した。

委員長 原 憲司
副委員長 鈴木登志子
委員 熊澤 友子
 同 藤原 浩
 同 児玉 洋一
 同 瀬戸 顕弘
 同 庄野 京子

規則の制定時期は
児玉委員 こども園条例に関する規則は、いつ制定するのか。
福祉課長 現在の保育園保育料と保育の利用に関する規則を、年明けに改正する。また、新たに子育て支援事業などに関する規則を、29年4月1日までに運用できるように制定する。

事業の周知は
児玉委員 認定こども園の内容等について、利用者への周知は。
福祉課長 入園説明会で説明しているが、具体的な部分は今後、広報やホームページ等で周知していく。

入園制限は
瀬戸委員 新しく認定こども園を開設するのに、入園の制限を細かく定義したため、入園を妨げるようなことが増えないか。
福祉課長 入園希望者をできるだけ受け入れられるよう努める。

児玉委員 「町長が入園を不適当と認める者」とは、どのような場合か。
福祉課長 園としてどうしても受け入れが難しい場合等を想定している。

学区外通園は
鈴木委員 入園要件について、幼稚園対象児童の学区外通園はできないのか。
教育長 町の幼稚園・保育園のあり方基本方針に基づき、幼稚園対象児童は学区内での通園とする。

副町長 学区指定をなくすのは、地域にも大きく影響し、地域の子どもたちは地域で育てるという理念も考慮しなければならないため、



現段階では学区内通園を継続させていきたい。
熊澤委員 「その他町長が特に認める児童」という項目で、学区外通園が可能になるのでは。
町長 やむを得ない事情により学区外通園を認めることもある。
福祉課長 具体的に、虐待やDVというような特別な事情等が考えられる。

所管は
藤原委員 認定こども園の所管は福祉課か。
副町長 29年度から福祉課に新たな班を設け、認定こども園の所管課として教育委員会と連携しながら取り組んでいく。

みなさんのご意見をお寄せください

～ 目安箱の設置～

町設置の町民ポストが、議会の「目安箱」としても利用できるようになりました。また、インターネットからもご意見をお寄せいただけます。

町ホームページトップ → **町議会** → **議会へのお問い合わせ**
 ホームページアドレス

<https://www.town.yamakita.kanagawa.jp>

(町民ポスト設置場所)

山北町役場本庁舎・生涯学習センター・健康福祉センター
 役場清水支所・役場三保支所



第4回臨時会

(11月24日開催)

山北町職員の給与に関する条例

平成28年人事院勧告に基づき改定される、国家公務員の給与に準じて給与改定を行うための条例改正。

平成28年度一般会計補正予算(第3号)

人事院勧告および4月の人事異動等にもなう人件費の補正。

平成28年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)

人事院勧告および4月の人事異動等にもなう人件費の補正で、歳入・歳出それぞれ651万2000を減額。

議案等審議の結果

第4回定例会(12月5日～8日)

件名	月日	審議結果	件名	月日	審議結果
山北町立認定こども園条例の制定	12月8日	可決 (賛成全員)	平成28年度山北町一般会計補正予算(第4号)	12月6日	可決 (賛成全員)
山北町職員の給与に関する条例の一部改正	12月8日	可決 (賛成全員)	平成28年度山北町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)	12月6日	可決 (賛成全員)
山北町税条例の一部改正	12月6日	可決 (賛成全員)	平成28年度山北町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	12月6日	可決 (賛成全員)
山北町砂利採取税条例の一部改正	12月6日	可決 (賛成全員)	町道路線の廃止 (No.11号(丸山1号)線)	12月6日	可決 (賛成全員)
山北町立の小中学校等の設置に関する条例の一部改正	12月8日	可決 (賛成全員)	町道路線の認定 (No.11号(丸山1号)線)	12月6日	可決 (賛成全員)
山北町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正	12月6日	可決 (賛成全員)	町道路線の廃止 (No.259号(水上2号)線)	12月6日	可決 (賛成全員)
山北町保育園条例の一部改正	12月8日	可決 (賛成全員)	町道路線の認定 (No.259号(水上2号)線)	12月6日	可決 (賛成全員)
山北町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の一部改正	12月6日	可決 (賛成全員)	南足柄市外五ヶ市町組合議会議員の選挙	12月8日	指名推選
山北町道路占用料徴収条例の一部改正	12月6日	可決 (賛成全員)			

第4回臨時会(11月24日)

件名	月日	審議結果	件名	月日	審議結果
山北町職員の給与に関する条例の一部改正	11月24日	可決 (賛成全員)	平成28年度山北町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	11月24日	可決 (賛成全員)
平成28年度山北町一般会計補正予算(第3号)	11月24日	可決 (賛成全員)			

4月に議会報告会・意見交換会を開催します

【報告テーマ】

総務環境常任委員会

「人口減少の課題と対策」

福祉教育常任委員会

「高齢者が安心して暮らせるまちづくり」

※日程等は、後日お知らせします。



ズバツと問う！

一般質問

一般質問は、町政に関して議員が質問を行い、提案や意見を

述べ、時には是正を求め、新たな施策方針等を問うものです。

原稿は、質問議員が作成しています。

ページ	質 問 事 項	質 問 議 員
8	1. スマートIC設置に伴う幹線道路構想の再構築を 2. 県道729号山北山中湖線計画の復活を	渡 辺 良 孝
9	1. 就学援助制度の拡充を 2. 学校給食について	庄 野 京 子
10	将来に備えたまちづくり ① 公共施設等の今後 ② 広域連携 ③ 健康寿命	瀬 戸 恵津子
11	住民サービスは町民ファーストで	石 田 照 子
12	認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを	熊 澤 友 子
13	外からの人材を利活用し、まちの活性化を図る考えは	藤 原 浩
14	高齢者（65才以上）の健康づくりと福祉の充実を	原 憲 司
15	山北町の減災対策について問う	井 上 正 文

秦野峠林道を歩いてみて

秦野峠林道は、山北町玄倉地区と松田町寄地区を結ぶ広域基幹林道として、全長15km、総工費42億円をかけ、平成7年に完成しました。しかし、度重なる落石やゴミの不法投棄などにより、現在は一部関係者以外での通行を禁止している状態です。

議会では今後この林道を松田町との連絡道として、また、災害時における迂回路として有効に活用することができないか、調査研究を進めています。



絶景 秦野峠から望む丹沢湖と富士山



町境に建つ記念碑

平成28年12月12日（月）
林道管理者である神奈川県職員からの概要説明を受け、山北・松田両町の議員による合同現地視察を行いました。林道の一部では土砂の流出、落石等の危険箇所、道路の陥没等が見受けられ、一般車両の通行にはまだ整備の必要性はあるものの、全線が幅員5mの舗装道であることや山北側から観る富士山の絶景は、観光資源として充分な可能性を秘めていると確認しました。

読まれる・伝わる

議会だよりへ

平成28年11月15日（火）
大井町生涯学習センターに
おいて、議会広報編集委員
研修会に参加しました。

主な内容は、「キャプシ
ョン（説明文）によって変
わる写真の効果」や「見出
しのパターンと効果」など、
編集の基礎を振り返ると同
時に、見出し作成実習を通



課題を元に、見出しを考える広報委員メンバー

じて内容が分かる見出しの作成方法を学ぶことができました。

今回の研修を通じて、今後、各委員の見識と知識の向上を図りながら、読まれる・伝わる議会だよりの編集に役立てていきたいと思っています。



問 就学援助制度の拡充を

答 町独自に中学校制服購入に補助している



庄野京子議員

就学援助とは義務教育で生活が厳しい家庭に学用品費、給食費等を補助する制度である。子育て世代の貧困化は神奈川県で11・2%、全国で13・8%と深刻化している。

問 対象児童生徒は何人か。

答 小学生24名、中学生12名が対象。

問 項目を増やせないか。

答 国と同等の項目を網羅し、町独自に中学校制服購入費補助を付加している。現時点では項目を増やすことは考えていない。

問 同制度の周知は。

答 広報等で周知をしている。



中学校制服

学校給食費補助を復活して

学校給食法ではすべての児童生徒の心身の健全な発育を願い、日本国民の食生活の改善に寄与する。

問 給食費4分の1の補助はどうか。

問 支給日を早められないか。

答 申請の審査、判定により一回目9月、二回目は3月支給になる。今のところ見直す予定はない。

問 米飯は何回か、中学時代は人生で最大の発育期、給食は教育の一環、人間づくりの原点である。

答 約週3回を米飯給食、あと2回はパンや麺類で変化をつけている。

問 食材の地産地消などは。

答 (財)学校給食会や町内から仕入れている。地産地消としては「とれたて山ちゃん」や「道の駅やまきた」から旬の野菜、果物も仕入れている。

J Aかながわ西湘からの提案を受けて地元の食材購入、調達方法の意見交換会を農家、栄養



ある日の山北中学の給食配膳風景

士も交えて行った。このような取り組み等により、地産地消をさらに推進することが農家の励みになり、耕作放棄地も減らせるのではないか。

問 スマートIC設置に伴う幹線道路構想の再構築を

答 道志村と協議を重ね実現に向けて進める



渡辺良孝 議員

当町は、神奈川・静岡・山梨3県の稜線を連ねる立地である。(仮)山北スマートIC設置により、県・国の幹線道路構想に絡むよう、今、広域的な道路構想を再構築していくべき時と思

答 この構想については、道志村の理解が必要となり、現状では非常に厳しい状況である。

しかし、本町にスマートICが設置されることから、長期的な視点で考えていく。

問 平成12年度に神奈川・静岡・山梨3県の10市町村で、「広域交通拠点整備計画調査研究会」を開催していた。その動きはどうか。

答 現在その組織は活動していないが、道志村では、富士山噴火や、東海沖地震などに備え、中央自動車道へつなぐアクセス道のトンネル建設期成同盟会を結成し、国・県へ要望していると聞いている。

問 当町は、平成19年度に中期的な計画の策定にあたり(仮)小田原甲府線の必要性



問 道志村には、(仮)山北スマートICの設置が決まったこと大いに期待を寄せる当時の計画に関わった関係者もいる。この路線に絡む環境は大きく変わり代替え路線も考えられる。道志村の動きを待つばかりではなく、当町からも積極的な動きをすべきと思うが。

答 今後、道志村と協議を重ね、双方で構想を再構築することができるようであれば、当町にとっても災害対策の面からも大切なことであるため、連携していきたい。

県道山北山中湖線計画の復活を

問 県道729号山北山中湖線は、神奈川・山梨両県をまたがる県道として認定されている。5次総合計画では具体的な計画がなくなっている。最近は道路環境が変わってきていることから、計画の復活をすべきではないか。

答 この計画の復活については、引き続き国及び県に粘り強く要望をしていく。しかし、県財政や道路を取り巻く状況の変化など、現状では厳しい状況である。

問 住民サービスは町民ファーストで

答 町民ファーストの考えを基本に総合的に判断

やまきた 議会だより



石田照子 議員

問 防災無線時報メロディーの12時と夕刻のメロディーは若い方の意見を取り入れ、明るく、楽しい町を演出してはどうか。

答 皆さんの意見を聴きながら、変更してもいいと思う。一方で聞きなれた音楽には安心感があり、高齢者の方にはなじみのある曲も必要ではないかとも思う。

町民ファーストの考えは、町民の言葉に耳を傾け、ニーズを把握することである。ニーズに合った町政は町民のかゆいところに手が届き、住みやすい町となるはず。そこで、町民や職員の意見、アイデアを反映できるような環境を整えることが重要であると思い、住みやすい町づくりと、使いやすい公共施設を提案し、質問する。



楽しく踊ろう山北音頭

問 幼稚園・保育園の保護者の方は、大きな不安を抱えながら大事なお子さんを預けている。各園に相談箱を置いたらどうか。

答 さまざまな意見を聴くことも重要だが、言葉にならない人たちの希望を想像し、町政運営に活かさないかと思っている。

問 循環バスを利用して小田原百貨店へ買い物に来る方のために、町主導により、山北音頭を

答 停留所の決定は、警察、富士急湘南バス、町とで規制の範囲内で設置している。現制度では、敷地内に入る事は難しい。

問 隠れた観光資源に、山北音頭があり、復活を望む声も多い。町主導により、山北音頭を

答 清水や三保の運動会では、毎回踊っている。地域、町民で出来ることは町民のアイデアや努力でやっていただきたい。町は、支援するという立場で、頑張っているところを応援し、広めていく。

問 毎月学校へ申請に行くことは不便である。手続きを簡素化するとともに、申請用紙も町のホームページから入手できるようにすべきでは。

答 今後の申請は、鍵の受け取り時にできるよう生涯学習課が担当し、毎月ではなく回数を減らす方向で検討中。申請用紙もダウンロードできるよう考えていく。

やまきた 議会だより

問 将来に備えたまちづくりを

答 十分検討し、町民に情報提供する

平成 29 年 2 月 No. 188



瀬戸恵津子 議員

27年度の決算では、高齢化による社会福祉関係費の増大により扶助費が増加し、普通建設事業費等が減少している。安定した行政サービスを提供するために、将来のまちづくりへの取り組みを問う。

公共施設等の計画的な管理

問 人口減少・少子高齢化により財政状況が厳しくなり公共施設等の維持補修・建て替えの財源の確保も厳しくなると推測される。利用状況にも変化が起きる。公共施設等の統廃合も含め、国から「公共施設等総合管理計画」を策定するよう求められていると思うが考え方は。

答 町域が広いので、公共施設の利用状況や補修等の緊急度により点検整備していきたい。

問 人口減少となるのに、公共施設等の統廃合や削減に対して数値目標はあるか。

答 数値目標はない。今と同じ公共施設等が本場に必要なのか検討し、早めに町民に示す。建て替える場合には、民間資金の活用も考える。

広域連携への対応

問 新たな広域連携についての見解は。

答 南足柄市と上郡5町が関連する「足柄上衛生組合」「足柄上地区ごみ処理広域化」については、2市が合併した場合に想定される影響の検証・対応策を検討している。

さらに上郡5町の共通する政策と事務の効率化のための広域連携も検討している。

インフラ長寿命化計画により
予防措置として改修中の谷ヶ跨線橋

問 中心市が各町と連携協約を結び、最後に連携中枢都市圏ビジョンを策定するため懇談会を設置するが各町は入らないと聞く。対等な関係といえるのか。

答 各連携町は、懇談会の構成員には含まれないが、策定には県西地域広域行政協議会で説明があり、中心市は、各町と協議することとなっている。

問 町長の感触はどうか。

答 連携中枢都市圏の中心市となるためには小田原市は、合併しないと国の補助は全く受けられない。合併後に中心市が、中枢都市宣言をした後に各町と協約を結ぶのでまず合併が成り立つか見守る。

本町を例にとると、公共施設やインフラは、大きな数値があり、町民への理解や調整が難しい。南足柄市も現在そういう状態だと思う。2市が合併した場合、中枢都市宣言を見極める。

問 外からの人材を利活用し、まちの活性化を図る考えは

答 地域で受け入れる状態が整えば、一般公募する



藤原 浩 議員

問 活性化のため、国の人材支援、「地域おこし協力隊」の活用を提案する。現場に取り組む人材、マネージャー的人材を登用し、チームで活用すべきと思うがどうか。

答 地域おこし協力隊については、先進事例、地域の現状確認・分析をし、総合的に判断する。導入には、地域の受け入れ体制整備が必要である。地域で受け入れる状態が整えば、一般で公募する。



移住者が、自ら空き家を改造し平成28年にオープンしたカフェ。地域のにぎわいに貢献。

答 適正な金額で、活用できる物件確保と、その仲介は難しい。定住対策課を窓口に、移住希望者の相談を受け、国・県の事業・制度を、積極的に活用し仲介等をすすめる。

問 移住を望む人が安心して住むには、働き場所の確保が重要である。まちで起業を考える時、不動産物件があまりに少ない。物件仲介等の仕組みを作り、国・県の関係機関と連携し空き家改修の助成をすべきと考えるがどうか。



地域の魅力を再発見し、イベントで発信する大学生。

答 創業促進補助金については、期日に間に合うよう、認定の計画を策定している。助成金については、定住対策課・商工観光課が連携し、希望者の相談を受け対応する。

問 国の財政支援施策として、創業・第二創業促進補助金がある。今年度は、町の認定がされておらず、希望者が使えなかった。町は、起業に関する助成金は、全て使える様、全力でたすべきと考えるがどうか。

※地域おこし協力隊とは、人口減・高齢化等の進行が著しい地域で地域外の人材を受け入れ、定住を図り地域力の維持・強化を図る国の事業。
活動に要する経費とし隊員一人当たり上限400万円の財政支援が得られる制度。任期は3年以下で、行政では出来なかった柔軟な地域おこし策として、注目を浴びている。



地域おこし協力隊の多くは、定住促進に結びついている。

問 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを

答 地域のサポーターを増やしていく



熊澤友子 議員

厚生労働省は、認知症への支援を強化するために認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を策定した。新オレンジプランは、認知症への理解を深めるための普及・啓発、認知症の人の介護者への支援、認知症を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進等を含めた7つの戦略が柱となっている。

チェックリストをホームページから

問 認知症の早期発見につなげるために、認知症チェックリストを町のホームページから入手できるようにする考えは。

「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」をやってみましょう！				
チェック①	まったくない	ときどきある	頻繁にある	いつもそうだ
財布や鍵など、物を置いた場所がわからなくなることがありますか	1点	2点	3点	4点
チェック②	まったくない	ときどきある	頻繁にある	いつもそうだ
5分前に聞いた話を思い出せないことがありますか	1点	2点	3点	4点

ホームページよりチェックを

答 認知症は、その症状に気づくことが大切。認知症チェックリストを使用し、その後のケアにもつなげていけるようなチェックリストをホームページに掲載するよう考えていく。

問（※）オレンジリングを頂いて認知症を理解した方（サポーター）が、それだけで終わっている場合が多い。（※）サポーターステップアップ講座とは、より深く理解できる専門の方による講座です。実施する考えは。

答 取り組んでいきたいと考えている。

答 大勢の方が関わる大がかりな訓練となるので、本町に適合する訓練マニュアルの策定について、今後検討していく。

問 徘徊模擬訓練に取り組む考えは。

※認知症サポーター養成講座とは、認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職場において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成する講座。この講座修了者にサポーターの証となる「オレンジリング」が交付される。
※オレンジリングとは、認知症サポーター養成講座修了者にサポーターの証として交付される。※サポーターステップアップ講座とは、オレンジリングを交付された方が、より深く理解するため作業療法士等の専門による講座。

問 山北町の減災対策について問う

答 課題を整理し、必要があれば導入する

やまきた 議会だより



井上正文 議員

2016年9月28日、南海トラフ巨大地震を想定した映像が、内閣府から発表された。生き延びた人々にも、恐るべき苦難が待っている映像である。現在、多くの自治体が想定外を予測し、減災対策（己を護る小さな取り組み）に着手している。9割が山の山北町だからこそできる減災を、平時の今、取り組まなければならないと考え質問する。

問 復旧が長期になると、暖がとれ料理ができる、丸太を利用したスウェーデントーチ（長さ40センチ）やロケットストーブが、山北町民を救うことになる。目標個数を決め、地区に配備する考えは。

答 森林資源の普及、啓発には有効だが、災害時の利用については、課題も含めて今後検討する。



スウェーデントーチ

問 プライバシー保護の為、町内連合自治会に、板のついたてや6帖くらいの丸太小屋キック2棟程度を準備する考えは。

問 中越地震では森林組合が4棟運搬した経過がある。ここで提案している減災グッズを、他地域の災害時、救援物資として運搬する考えは。

答 テント型の避難ルームを備蓄しているので、今の段階では丸太小屋キットなどを備蓄することは考えていない。

答 既存の間仕切りなどを救援物資として支援していきたい。

問 過去の大震災では地震発生直後の火災のほか、停電復旧後に壊れた電気器具などから出火する「通電火災」が相次いだ。火事の原因の6割以上が電気によるものとされている。感震ブレーカーの設置が急がれているが、町の考えは。

答 来年度、近隣の自治体の状況などを見ながら、設置時の助成について検討する。

問 熊本地震では、ドローンで命を救う取り組みを試みた団体があった。山間部に人家が点在する山北町では、最適の機器になると思われるが、導入の考えは。

答 観光資源などへの活用についても大変有効であると考えている。その一方で、落下事故などの課題もあるため、今後防災面での活用について慎重に対応していく。

やまきた 議会だより

問 高齢者の健康づくりと福祉の充実を

答 健康づくりや医療・福祉などの充実に取り組む

平成 29 年 2 月 No. 188



原 憲司 議員

当町の人口は、平成28年10月1日現在1万925人、65才以上の高齢者は3942人、高齢化率は36.1%である。平成27年10月1日は1万1191人、高齢者は3872人、高齢化率は34.6%であるので、高齢者の健康づくりや医療・福祉の充実に係る取り組みについて質問する。

問 町の高齢化が進む中、高齢者への健康づくりにどのような取り組みののか。

答 町は、水中運動教室、健康づくりポイント事業、ロコモ予防体操教室等を行い、高齢者や町民の健康づくりを進めているが、新たにボールウォーキング教室を加え、高齢者の健康づくりを進める。

問 高齢者の在宅医療や介護連携、意見交換等の相談業務を行い、高齢者の安心・安全をどのように進めるのか。

答 1市5町で足柄上病院内に相談支援センターを設置し、医師、看護師、介護事業所などの専門職による研修会を行い、あわせて、地域支援センターと連携した相談業務を行い、医療や介護の連携を推進する。

問 高齢者の健康づくりのため、町内の医療機関等と連携を図り、高齢者の生きがいづくりを進めてはどうか。

答 高齢者が病気や要介護状態にならないように町内の医療機関等と連携し、高齢者の生きがいづくりと健康づくりを推進する。



問 高齢者の健康づくり、医療・福祉などを充実させることで、高齢者の笑顔づくりを進めてはどうか。

答 高齢者の豊富な知識や経験を活かし、介護ボランティア事業などを展開し、高齢者の笑顔づくりを推進する。

問 高齢者の寝たきりや認知症対策に関係機関と連携し、高齢者や家族が安心して暮らせる体制づくりを進めてはどうか。

答 介護保険のサービス利用を基本にボランティアやNPO法人の活用を制度化し、高齢者や家族の支援をさらに充実する。

問 高齢者が健康づくり・介護予防・生きがいづくりなどに積極的に参加できるシステムづくりを進めてはどうか。

答 地域包括ケアシステムや高齢者が町づくり等に参加できるシステムを構築し、高齢者が安全・安心に暮らせる地域づくりを進める。



【本年度の公演日時】

- 2月11日(土)
午後1時～3時
- 2月12日(日)
午前10時～12時／午後1時～3時

また、別々に伝わったと言われる勇壮な獅子舞4曲と遊び神楽3曲が観る人を魅了させます。最終日には、道場中央に置かれた大太鼓をたたきながら融通念仏を10回唱えた後、戸口にかけておくと疫病除けになると言われる天井に張られたしめ縄を、修験者の合図で奪い合います。一週間後には幣束をもった獅子が、浄め祓いの舞で家々を回り悪魔祓いをして、幣束を酒匂川に流して一年の無病息災を祈り終えます。



渡辺 安男さん

大数珠を巨大な滑車に取り付け、屈強な青年たちが縦に回転させる世附の百万遍念仏の形式は、全国的にも珍しいと言われています。

600年の歴史、世附の百万遍念仏

活きいきひろば

議会の傍聴においでください

第1回定例会(予定)

3月3日(金)～

庁舎内テレビでも放映しています

お問い合わせ 議会事務局 75-3653

●議会ホームページ●

<http://www.town.yamakita.kanagawa.jp/gikai/>



3月 第1回定例会・本会議

3月

22 議会運営委員会

16 県議長会役員会等

14 全員協議会

3 上郡議長会議員研修

2月

議会活動予定



広報分科会
会長 石田 照子
副会長 児玉 洋一
委員 井上 正文
瀬戸 恵津子
鈴木 登志子
庄野 京子

これからの親しみある議会だよりの編集に努めて参ります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
(石田)

編集後記

穏やかな新年の幕開けから、早いもので1か月が過ぎました。西年は取り込むと言って、縁起が良い年とされています。議会でも皆様のお声を積極的に取り入れていこうと、目安箱とホームページでご意見をお聴きできる体制が整いました。

この目安箱等が、皆様と議会の懸け橋となり、いただいたご意見を議会運営にしっかりと反映させていかなければと、決意も新に平成29年を迎えました。多くのご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

4月には認定こども園が開園します。未来を担う子どもたちの、豊かな情操教育と体力作りが行われるものと大きく期待しております。

